

2018年9月13日

リサイクル燃料貯蔵株式会社
社長 坂本 隆 様

核の永久のゴミ捨て場となるだけの 使用済核燃料の「中間貯蔵施設」の操業をやめてください

リサイクル燃料備蓄センター（使用済核燃料の「中間貯蔵施設」）については、当初から、最大 50 年の供用期間終了後に使用済核燃料が確実に搬出されるのか、搬出されずに居残り続け、永久の核のゴミ捨て場になりはしないか、ということが大きな懸念となっていました。

施設の事業許可に際して交わされた四者による協定書の第 1 条（3）の「使用済燃料は貯蔵期間の終了までに貯蔵施設から搬出するものとする」との記載について、2010 年 5 月 17 日のむつ市議会全員協議会で議論がありました。六ヶ所再処理工場は寿命が約 40 年とされており、貯蔵終了後の搬出先にはなりえず、搬出先の本命は「第二再処理工場」ということになっており、出席した貴社の技術部長（当時）は、「第二再処理工場に対して国は検討を開始する」と答弁しました。当時の宮下順一郎市長はこの答弁を引き合いに出しながら、「最終処分地にはなりえない」と繰り返し強調していました。

しかしここへきて再処理をめぐる状況は大きく変化しています。六ヶ所再処理工場の目途が立たない状況で、「第二再処理工場」については検討すらなく、資源エネルギー庁が作成した核燃料サイクル図からも消えており、いまは全く未定であることを同庁も認めています。六ヶ所再処理工場については、ガラス固化に根本的な欠陥をかかえてトラブルが続出し、試運転が中断した中で 3・11 福島原発事故を迎え、その後も操業延期が繰り返されています。昨年 12 月には、新規制基準対応工事を理由に完成時期を 3 年延期するとの発表がありましたが、工事どころか、中断していた審査がようやく再開された状況で、審査を終える見通しもない状況にあります。

そしていま、日本のプルトニウム保有がますます国際的な批判にさらされています。政府は、プルトニウム保有に制限を設け、必要最小限にしか再処理を行わない方向で検討を進めていると伝えられています。しかし、いくら最小限にしても、再処理してしまえば、プルトニウムを増やすだけです。高速増殖炉「もんじゅ」の廃炉措置が決まり、プルトニウム利用政策は目的を失いました。日本には、再処理事業を完全に止め、プルトニウム利用政策を放棄することが求められています。

このような状況の中で、むつ市の「中間貯蔵施設」は「中間」の意味を失っています。最初の搬入は東電の柏崎刈羽原発からキャスク 1 基とされていますが、原発サイトにある燃料プールが満杯に近く、このままでは原発の運転が継続できないという、そのためだけの搬入です。関西電力の話も同様です。50 年後にはすべて搬出することになっていても、搬出先がなければ、結局はそこに残り続けることになるでしょう。はじめは 1 基であっても、そこからなし崩し的に「リサイクル燃料」ではない「核のゴミ」を次々とため込むことになることを私たちは懸念します。今年正月に貴職は新聞のインタビューにおいて、「事業の大前提」と位置付ける六ヶ所再処理工場の完工前でも施設を操業させる考えを初めて示しました。このような発言がますます、私たちの懸念を増幅させます。発言を撤回して

ください。

施設の敷地は、恐山の噴火により、火砕流が過去少なくとも3回到達したことが確認されています。このような場所は他の原子力施設ではありません。津波の評価では、当初は津波による浸水を防ぐ設計としていたものを、新規制基準の審査において、津波による浸水が防ぎきれないことから、浸水を前提とした設計に方針が変更されました。原子炉であればすぐに不許可となるはずですが、このように、施設の敷地は、そもそも原子炉施設を建設するにはふさわしくない場所です。地震や火山活動、台風、竜巻など、自然災害が頻発し激しさを増している中、安全上の観点からも、操業すべきではありません。

要 請 事 項

1. 使用済み燃料の貯蔵後の搬出方法が不明確な状況にあることから、キャスクの搬入を開始しないこと
2. むつ市を核のゴミ捨て場にしないため、操業を開始しないこと
3. 関西電力等、協定書外の使用済み燃料の搬入について、これを一切行わないこと

<申し入れ団体>

むつ市 核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会
原発核燃をなくす下北の会

青森県 核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会
核燃サイクル阻止核燃サイクル一万人原告訴訟団
青森県反核実行委員会
花とハーブの里
大間原発に反対する会

新潟県 さよなら柏崎刈羽原発プロジェクト
柏崎刈羽原発反対地元三団体
原発反対刈羽村を守る会

関 西 避難計画を案ずる関西連絡会

首都圏 国際環境 NGO FoE Japan
原子力規制を監視する市民の会

<連絡先>

核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会（担当：栗橋）